

第 14 回

桜美林大学留学生日本語スピーチコンテスト

日時 2015年6月27日（土）

会場 桜美林大学国際寮大ホール

文集



2015年

桜美林大学日本語文化学院（留学生別科）

目次

まえがき

異文化経験とグローバル・コミュニケーション

(発表順)

フレルバトル サインサナー (モンゴル)

留学生には失ってはいけない「モノ」がある

7

湯 佳雯 (中国)

生きてなきや、意味がないんだ

10

リー シャオウェイ (シンガポール)

私の好きな日本

13

伊 樺 (中国)

私が感じた大学生活

15

龔 枝文 (中国)

短所

18

呂 尔力 (中国)

若者の言葉

20

ペラレス ジョン	(アメリカ)	僕の親友	23
蕭 瀟	(中国)	スマホで失ったこと	26
徐 智捷	(中国)	幸せはいつも自分の心が決める	29
ジェイソン プア	(マレーシア)	私が頑張ったこと	32
董 芸	(中国)	私の留学生活	35
萬 瀟瀟	(中国)	日本の餃子	38
エルデネバット ルハムザヤ	(モンゴル)	日本での一人旅	40
グエン ゴー フェン チャン	(ベトナム)	私の心に日本	43
ゴベ トマ	(スイス)	勇往邁進	45
李 天芸	(中国)	本当にありがとう	47

まえがき

第14回桜美林大学留学生による日本語スピーチコンテストの文集をお届けします。

この度の留学生日本語スピーチコンテストは6月27日(土)、桜美林大学国際寮大ホールで開催されました。16名の留学生が出場し、日本語でスピーチを行いました。16名の留学生はスイス、アメリカ、シンガポール、ベトナム、マレーシア、モンゴル、中国から来ています。別科生が9名、交換留学生が3名、学群生が4名です。5名の教員が審査員を務めました。また、淵野辺駅前商店街のここにこ星ふちのべ協同組合の指原さんがお見えになり、スピーチが終わった後皆さんのスピーチについて講評を行ってくださいました。

6月の終わり頃といえば、期末試験が間近で十分準備の時間が取れなかった学生もいましたが、皆さんのスピーチはいずれも思いの込められた素晴らしいものでした。また、日本語でのスピーチは日頃の学習の成果の報告でもありました。

ぜひより多くの方々に日本で暮らす留学生の思いに触れていただき、留学生の日本語を読んでいただければと思っています。また、ご感想、ご意見をお寄せいただけるとありがたいです。

異文化経験とグローバル・コミュニケーション

桜美林大学 副学長 畑山 浩昭

桜美林大学で学ぶ留学生たちの日本語スピーチコンテストは毎年恒例となっています。今年度で第14回を迎えました。今回のスピーチも傑作が多く、ユニークな視点や特徴のある議論の展開を数多く発見することができます。

留学生の皆さんは、話す言語も、育った社会も、慣れ親しんだ文化もそれぞれ異なります。しかし現在は日本で一緒に生活し、桜美林で学んでいます。当然、様々な相違に遭遇し、疑問を持ったり、価値観の違いに気づいたりします。彼らのそのような気づきや発見がスピーチの題材になっていますので、日本語を話し、日本社会で育った日本人にとっては、この文集は言語や社会、文化について考察するための貴重な教科書となります。日本人が日常的には気づかないこと、一般化、大衆化されていて疑問に持たないようなことでも、留学生にとっては大きな驚きとなり、それらのことがスピーチのテーマとなっているのです。

また、ひとつひとつのスピーチを読むと、それを書いた留学生の精神的な成長が手に取るようにわかります。留学生たちは日本語や日本文化を勉強するだけでなく、日々の実際の生活の中で、様々な課題や問題に向き合います。ひとつひとつを解決していくプロセスの中

で、苦勞したり、挫折したり、また、成功して喜んだりしながら、確実に成長していきます。留学生たちの頑張る姿は、読む人にも刺激を与え、自分たちも頑張ろうという気持ちにさせます。特に、外国語の習得や異文化理解の実例として、多くのレッスンを得ることができます。その意味で、今回も本当に素晴らしい文集に仕上がっていると思います。

さて、最近は「グローバル化」や「グローバル社会」が、世界の重要なキーワードになっています。グローバル化とは、政治や経済、文化など、様々な側面において従来の国や地域の垣根を越えて、まさしくグローバルに、地球規模で資本や情報のやりとりが行われ、大きな変化を引き起こすことです。その大きな波、力の影響で、物事を判断するための基準が変化していくと、それを土台とした人々の言動も変わっていきます。グローバル・スタンダードという言葉もあるように、世界的に通用する基準の模索も様々な分野で始まっています。

大学においても「グローバル」という名前がつく学部や学科が設置されたり、大学全体で取り組む教育プログラムの名前にも利用されたりしています。教育研究をグローバルに展開する意義が教育の世界で認められ、その実践のあり方が問われています。様々な分野の活動が、国や地域を超えて展開され、グローバル化が進んでいく中で、高等教育はどのようなようにあるべきか、それぞれの大学が模索しているのです。桜美林大学でもグローバルを意識した教育研究活動が行われていますが、その核となるのは「人」であり、最も重要なのは学生です。

特に、留学生は、グローバル教育の真ただ中に置かれているわけです。

今回のスピーチコンテストは16名の留学生が出場しましたが、その出身をみると、スイス、アメリカ、シンガポール、ベトナム、マレーシア、モンゴル、中国ということで、全体の人数はそれほど大きくなくても、かなりグローバルなコンテストで行われたことがわかります。日本の学生も議論に加わるわけですが、文化、社会、人間、コミュニケーション、国際社会などのテーマで語られる様々な留学生たちの主張をつき合わせると、だんだんとグローバル・コミュニティが形成されていきます。数多くの留学生が桜美林大学のキャンパスで学びあうことによって、グローバル環境が構築され、そこで学びあう学生たちはまさしくグローバルな学修を行うことになります。桜美林大学で、日本人の学生も留学生もお互いに切磋琢磨して、グローバルに活躍できる人物になってほしいと願っています。

留学生には失ってはいけない「モノ」がある

第2位

リベラルアーツ学群3年 フレルバトル サインサナー

3年前、私は今まで慣れ親しんできた自国の社会や習慣を離れ、将来の夢を実現するための一歩を踏み出しました。その時、私は高い意識を持ち、将来の夢を誰にも恥じることなく、頭を上げて話せるような学生でした。しかし、そのような私も徐々にこの日本の社会に慣れてしまいました。大学、家、アルバイト先に行くだけの毎日を過ごし、日本に着いたばかりの頃のような新鮮さもなくなり、すっかり勉強しようという気持ちも薄くなってきてしまいました。でも、当時の私は自分の夢と留学本来の目的を忘れたことに気づいてもいませんでした。

夏休みの頃、私は一時帰国することになりました。2日間ぐらいしたら両親に「この子、なんか大人しくなっていない？」と言われ、大きなショックを受けました。今まで何でもチャレンジしてみたいという性格を持っていた私は、いつの間にか何事にもルールに従い、細かいことにも気が回るようになっていました。それに気づいた私は、大学の交換留学プログラムに挑戦するために勇気を出すことにしました。長い間の準備の結果、ようやく昨年8月からアメリカにあるテキサス大学に半年間留学することになりました。そして、私は再びす

で慣れたこの日本から離れ、新たな旅立ちをしたのです。

始めてアメリカの大学で授業を受けた情景は、今でも眼前に浮かびます。「Abnormal psychology・異常心理学」という授業でした。教室に入り、無意識に私は後ろの席を選び、静かに座りました。今まで、大学で受けてきた講義タイプとは全く異なり、先生に質問する学生もかなり多く、前の席も不思議にいつも満席でした。また、心理学の研究室に入った初めての日、先生はみんなに「この子、日本から来たので文化や習慣の違いがある」と言いました。そこで、私は考えました。日本人らしい性格って一体何を言うのだろう。どうなる日本人らしいと言われるのか。

「郷に入っては郷に従え」という言葉があります。しかし、今までの留学経験を通して、私は留学中に最も大切なことは自分が留学生であることをはっきり自覚し、その個性を失わないことだと認識しました。自分の国の文化を保ちながら、多文化に触れ合えることの大事さを深く理解できたと思います。学生とは学んで生きることです。留学先の文化や歴史、生活習慣、現地の人々の考え方を学習するのはとてもいいことだと思います。しかし、「アイデンティティ」という言葉を忘れないで欲しいのです。外国に行くたび、自分を失い、変化を求めると今度私はアメリカ人っぽいと言われてしまうかもしれません。みんなちがって、みんないい。私たち留学生が母国の個性や特徴的性格を失ったら、国際交流や異文化交流はど

ここで、どう行われるのでしょうか。

ペンシルバニア大学の組織心理学者であるアダム・グラントは『GIVE & TAKE』において、テイクより与える人こそ成功する時代だと主張しました。そこで、外国の文化や教育、経済からテイクだけをしてきた私はどうすればこの豊富なチャンスを私に与えてくれた日本にギブできるか考えました。感謝の気持ちを伝えるために、私は日本人の学生に刺激を与えたいと思います。

最後に、留学で一番怖いことは留学生活に慣れてしまうことだと私は常に思ってきました。日々が惰性で流れるようになると、自分に甘くなり日々得られる成果の質が落ちていきます。そのため、みんなで初心を忘れずに自分なりの個性を持ちながら常に未来に挑戦し続けていきます。

生きてなきや、意味がないんだ

留学生別科 湯 佳雯

「2015年5月1日、晴れ。花ちゃん、そっちで元気にやってる？ 風邪とかひいてないのかな。あ、もしかして、ケーキとか食べてる？ 甘いもん大好きだったもんね、花ちゃんは。昨日はね、花ちゃんの夢を見たの。花ちゃんはたくさんの風船を抱えてきて、私と自分の体に結びつけて、私たちは風船に体を持ち上げられて、空を飛んでいった。君は遠ざかっていったけど、私は風に流されて、飛んでいかなかった。自分の非力さが少し悲しかった。目覚めたら、花ちゃんがいたらいいなあって、会いたくて、会いたくてしょうがなかった……」

去年私の親友、花ちゃんがガンで死んでしまいました。あの日、彼女へ手紙を書いたのです。届かないのは分かっているながら、不思議と彼女が聞こえているような気がしました。

花ちゃんはパティシエになるのが夢でした。2人で夜空を見て夢を語りあった時に言ってくれました。「辛い時はさ、ケーキとかシュークリームとか食べると、悩みは全部飛んでいて、まるで魔法使いが突然現れたみたい。もしかしたら、パティシエは人を幸せにできるもんじゃないかな」。花ちゃんはそう思っていました。

花ちゃんはずっと頑張っていました。パティシエを目指して、一流の養成学校に入学しま

した。しかし、その時でした。花ちゃんは末期ガンだと診断されたのです。まるで運命にもあそばれているように、一步一步築いてきたそれまでの人生が一瞬で幻になってしまいました。

「ごねんね、うそついちゃって。パティシエになるって言ったのに、もうなれないかな。でも大丈夫、今度また頑張るから」と花ちゃんが言ったのが私と交わした最後の一言でした。今になっても時々考えます。「花ちゃんはきっと、悔しかったでしょう」と。夢が中途半端なまま死んでしまったなんて。

私は今日も生きています。まだ夢を追い続けられます。それは花ちゃんと比べてどれほど幸せでしょう。

それでも、世の中には、この幸せを知らなかった人たちもいます。「もう生きたくない、生き続ける意味がない」と思いつめた結果、自殺を図ってしまった人たちです。正しい人が報われ、幸せになれる社会、そんなのは夢物語で、現実是非情です。けれど、人は夢があるから生きられるんです。理想を叶えようとするから、私たちはこの諦めに満ちた現実を生きていけるんです。「いいんじゃないか、転んだって、また起き上がればいいじゃん。生きてゆこうよ、何があっても、醜いなんて思わずに……」。いつか必ず夢が現実を覆せることをひたすら信じていきましよう。

皆さん、人生は必ずいつか終わります。今日と同じような日常が明日も当たり前のように来るわけではなく、家族や親友もずっとそばにいたとは限りません。今のあなたには、まだやりたくてやっていないことはありませんか。もしあったら思いっきりやってください。結果がどうかなんてどうでもいいのです。大事なものがいて、前に向かって頑張つて、精一杯生きているそういう自分なのです！

私は今日も生きています。不思議と一人になった気がしません。親友をなくしてからの1年間で、毎日いろんな壁にぶつかる度に、彼女が残した夢を思い出します。何があったとしても、諦めるなんて思わずに、彼女の分まで必死に生きていこうと決意することができました。

もし皆さんが、どうしてもやっていきたいことがあったら、たった一つでもいい。もし、どうしても守っていききたいと思う、大切な誰かがいたら、たった一人でもいい。どうかその気持ちを大事にしてください。輝いている人生だろうが、光なき人生だろうが、ずっと変わらずに、その思いを持ち続けてください。何より、それはあなたの一度きりの人生ですし、いつか振り返ってみると、自分の人生を誇らしく思えるはずですよ。

私の好きな日本

留学生別科 リー シャオウエイ

みなさんは、「日本」と言うと、まず何を思いつきますか？ 日本にはたくさん有名なものがありますが、人によって好きな日本は違いますよね。「日本のアニメや漫画に夢中にはまっている！」という人もいますし、日本の美味しい食べ物や有名な観光地を思いつくという人もいます。私にも「大好きな日本」がたくさんあります。

まず、一番好きなものは「日本の四季」です。シンガポール人の私は、日本に来るまでは四季を体験するチャンスが全然なかったのですが、日本の四季を本当に楽しみにしてきました。なぜかというと、それぞれの季節の魅力が異なるので、季節によって体験出来ることも異なるからです。例えば、スキーをすることや雪を見ることは冬ならでのことですし、お花見に行くことは春にしか体験できないことです。私にとって、4月の花見シーズンは一年で一番待ち遠しい季節です。咲いている花を見るばかりか、爽やかな風を感じながら、綺麗な桜の下で友達と話したり、お酒を飲んだり、スナックを食べたり、音楽を聴いたりすることもできます。

次に、「日本の食文化」も大好きです。コンビニで安く買える弁当から、高級レストランで

楽しめる懐石料理まで、日本の食べ物の種類は豊富で、どんなに食べても飽きることはありません。

そのうえ、みんな食事を取る前には「いただきます」、食後には「ごちそうさまでした」といった挨拶をします。日本人は人と人との一体感がとても強いと、外国人からは見えるかもしれない。つまり、日本の食事は、単に食べ物を食べるだけではなくて、みんなと一緒にのんびり時間を過ごすためのものだと思います。そういう日本ならではの食文化も、日本の一つの魅力だと思います。

さて、日本の食べ物と言うと、全世界を通じて寿司や刺身があげられるでしょう。なぜかというところ、それらは日本の食べ物として一番有名でおいしいものだと思われるからです。しかし、私には「茶碗蒸し」という卵のサイドディッシュのほうが寿司や刺身より特別です。私は茶碗蒸しにはまっているので、シンガポールにいたときから自分で何回も作っています。

日本の食べ物は、それぞれそれなりに特別ですが、茶碗蒸しの味は独特だと思います。茶碗蒸しの味は「組み合わせの味」だと思います。茶碗蒸しは、たくさんの材料を少しずつ使って作られています。しかし、材料のバランスが取れていないと、茶碗蒸しの特別な「組み合わせの味」は味わうことが出来ません。ですから、茶碗蒸しを作るときには材料のバランスを意識しなければなりません。そういう繊細な感覚も、私が好きな日本の魅力です。

私が感じた大学生活



特別賞

健康福祉学群3年 伊 樺

ご来場の皆様は大学生活はどうですか？ 本日は私が感じた大学生活について皆様と

楽しく話していきたいと思います。この前、私は桜美林大学孔子学院で行われた中国語スピーチコンテストに行ったとき、ある学生に注目しました。彼は車椅子を利用している障害者ですが、緊張しないで堂々とスピーチをしていて、その姿に驚きました。ぺらぺらの中国語で自身の状況を紹介しました。彼は生まれつき低能児で、6歳でようやく歩くことができたそうです。今日の彼は大学生活を楽しく過ごしたり、中国語を学んだりしているのはお母さんの苦勞と丁寧な心を励ます支えがあるからこそで、悩んだときに、ちゃんとやらないとあきらめたくない、ではどうしてあきらめたいのか、このような言葉がよく耳元で聞こえてくると言っているように聞きました。そのあと考えたことは、人間はなぜこの地球に生まれ、なぜ大学教育という過程を通して頑張っていくのかということです。それは幸せなことではないでしょうか？ 私にとって日本に留学している大学生活を通して、いろいろ感じた異文化に関することは人生の幸せの一つだと思います。スピーチした学生にとって、憧れている中国語を習得し、母の励ましのもとに頑張っていくことは幸

せだと思いません。昔から「玉も磨かなければ光らない」と言われます。有名なアリババの社長馬雲さんは大学生としての私たちにこういう話をしたことがあります。「若者は創業しないし、旅行に行かないし、新鮮な物事を受け入れないし、周りの友達にプラスエネルギーを持ってこないし、毎日ネットショッピングするとか、空から甘いものが落ちてくることを待つなど、だらだらした生活について、君の青春にはどんな役割がありますか」と。私たちは馬さんに指摘された問題を考えるべきです。私は今の若者には、勇気が足りないと思います。何でも最初から自分を否定して、そしてやる気が出ない、やる前から自信を失い、常に同じことしか繰り返していません。確かに、同じことを繰り返していても、新しい物事が見つかるかもしれないかもしれませんが、それでは人生の進歩にはなりません。結局、世の中だけどんどん変化し、自分はいつまでも立ち止まっている状態です。自分自身の経験で言うと、大学のゼミに入って教授の指導を受けた時、私は毎回同じ評価を繰り返して出し、教授にいつも同じ作文みたいな文書だといわれてしまいました。困ったときは落ち着いて自己分析しなければならぬわけですが、その時の私は自分の進歩が全く見えませんでした。

大学生活は早いものです。大学生活を惜しんで、楽しく充実した生活を過ごすように夢を持ち続け、努力を続ける人に道は開かれます。数年後、大学生活を振り返ったとき

に、悔しい思いがなければ、いい思い出が残ります。それが、私たちの青春を持って築いた人生に渡るために不可欠な橋だと思えます。

短所

留学生別科 龔 枝文

皆さん、短所と聞くと、どのようなイメージを抱くでしょうか。心のどこかで自分の短所を感じて自分自身を責めたことがありますか。

私は心では物事の理屈は分かっているけれど、実際に物事にあつた時は臆病なタイプです。最近このようなことがありました。駅で電車を待っている時、初めて知的障害者に会いました。「障害者は私達と同じような人間で、平等に対応すべき、偏見を持つことは駄目だ」という理屈ははつきり分かっています。しかし、彼が段々歩いて近づくと、やはり怖い、怖くてどうすればいいのかわからなくなりました。「もし私の無意識な行為で彼の敏感な神経に触ったら私を殴るかもしれない」と思っていました。そうすると見て見ぬふりで避けてしまいました。「どうして怖いと思ったのか、私は本当に臆病だ、自分を守るため、このような行為をして障害者を傷つけるかも」と思いました。恥ずかしくて自分を責めて、つい落ち込んでしまいました。悩んだ末友達に相談しました。「私は臆病で、自分を守ることだけ考える、頼りないな」と友達に言いました。「臆病でいいじゃない、自分さえ守れなくて何かを守るの？」と友達が言ってくれました。その言葉を聞くと頭がぱつと明るくなりました。確かに臆病で

あることは私の短所として間違いない、しかし、短所はずっと短所ではなく、場合によって長所とすることもできます。

「ミロのヴィーナス」という彫刻は皆さんきつと聞いたことがありますね。ほかの彫刻作品に比べて両手を失ったヴィーナスは完了品ではなく、一見両手を失ったことは欠点ですが、よく味わうと、この欠点はほかの彫刻よりもっと人に注目されました。自由に想像する空間が十分に与えられて、短所は魅力に変わりました。

皆さん、自分の短所を受け入れてみてください。完璧な人は世の中に存在するわけがない、何故ならば、自分が自分に満足できないと感じているところを改善したとしても、また次に改善したいと思うポイントが現れるからです。ひたすらに改善すれば、果てしない循環にはまっていくわけで、重くつまらない人生を送ることになります。そうであれば、短所はそのまま放っておけばいいのではないのでしょうか。もし私は臆病でなければ私らしくなくなり、もっと困ることになったでしょう。

また、自分の短所を受け入れる時は自分が成長する時だと思います。短所のおかげで弁証的な視点から物事を考える能力と包容力を身につけられて、自分を成長させることができます。短所は素敵なものだと思いますか。

若者の言葉

留学生別科 呂 尔力

「若者の言葉」と言えば、自分は「マジ、おつ、あざーす」というような言葉が頭の中に浮びます。ご来場の皆さんは高校生がこれらの言葉を使うのを聞いたことがあるかもしれません。何故今日、私は「若者の言葉」というテーマについて話しますか？ 実は先日、私は偶然日本人の友達とこの話題に触れました。この話をきっかけに、私は徐々に「若者言葉」に興味を持つようになりました。

若者言葉とは「20代前後（10代後半・30代前半）の青少年が日常的に用いる俗語・スラングなどで、それ以外の世代ではあまり用いない言葉のことである」という定義が辞書に書かれています。ちなみに、年を取った人は、若者が話す時に使う言葉が全然理解できない可能性があります。もちろん、私は高齢者ではなく、青年ですけど外国人なので、去年9月初めて来日した時、若者の言葉が全然分かりませんでした。電車に乗った時いつも高校生が「やばい」「マジ」という言葉を使うのを耳にしました。「やばい」「マジ」はどんな意味？ どんな時に使われるのかという疑問が出てきました。自分の疑問を解き明かすために、インターネットで調べて、この二つの言葉の意味と使われる場面が理解できました。「やばい」は「よ

くない」「非常にまずい状態に陥っている」という意味、また近年では意味が広がっており、「予想に反して驚き、衝撃を受けてしまった」という際にも使用されるようになってきています。さらには、「衝撃を受けるほどすばらしい」と言う意味でも使われます。そして、「マジ」は「真面目」の意味であると、強調または真実性の表現として用いられます。私が中国の大学で勉強した経験では、「やばい」「マジ」の代わりに、この場面では「大変だ」「本当に」という言葉を使うべきです。ですが、どうして「やばい」「マジ」を使うのでしょうか？ 驚いたことに、日本人の友達は『『大変だ』などは書き言葉の感じだ。話すときに使うのはおかしいね。若者だから、自分の個性を表す自分の言葉を使用するのがファッションかな』という観点を聞いて、以下の感想ができました。

「教科書にこだわらない若者言葉を使えば、日本人の若者と友達になり、社会ではやっていく現象を知ることができる」

そして、日本ばかりでなく、中国でも若者は自分の特色用語を日常生活やインターネットで使っています。例えば、ローマ字を使って新しい表現を作ることが流行しています。これは言葉の多様性を表現し、社会に活力を与えるのではないのでしょうか。

それに対して、「言葉のきれいを破壊し、若者の中ではやっている言葉は他人、特に年寄りが見えなくて、迷惑をかけるかもしれない」という意見を持っている人が確かに少な

くないのです。

みなさんは私のスピーチを聞いて、どんな意見を持ちますか？
時間があれば、ぜひ私に
教えてください。

以上です。ご清聴ありがとうございます。

僕の親友



特別賞

交換留学 ペラレス ジョン

皆さんこんにちは。ジョンペラレスと申します。今回僕は留学の経験について話したいと思います。僕は10カ月ぐらい日本で勉強しています。その間にたくさん新しい友達と一緒に遊びました。実は僕は桜美林大学の音楽サークルに最初に入ったアメリカ人です。そのサークルはJKENジャズ研音楽サークルでたくさん友達がいいますが、今日はその中でも僕の親友について話したいと思います。その人ははるとさんです。

初めて会った時、彼は1年生でしたが、とても大人びて見えました。僕たちは初めからたくさん深い話ができるので、はるとさんとはるとさんの生活について知りました。その他にも色々な音楽について話すこともできました。話していくうちに、はるとさんの性格はとてもユニークだと考えるようになりました。優しくてやる気に満ち溢れていて、2人でもっと多く遊びたいと思いました。例えばホームシックになった時、はるとさんは僕に「頑張つて！」と言ってくれました。もし、英語で「Do your best」というと、ちょっと冷たい感じがします。「一人で頑張る」という意味だからです。だから、病気の人に向かってあまり言わないほうがいいです。

でも、はるとさんが「頑張つて！」と言ったときの意味は、「Do your best」だけではありませんでした。あとで、いろいろサポートしてくれました。このとき僕は日本語の「頑張つて」の意味について、深くわかりました。日本語ではいろいろな場面で、「頑張つて」と言います。その言葉には、「はやく元気になってください」「心配しています」など、ほかの意味が含まれています。

アメリカ人は普通、もっと自分の気持ちを説明します。たとえば自分が大変な時、「I am having such a difficult time. This is too difficult.” などというし、友達が大変な時は「It will be ok and I am here for you.” など、いろいろなことを言います。でも、日本人は一言言うだけで、長く説明しないことがあります。日本に住んで、このような日本人の話し方や日本の文化についても勉強になりました。

はるとさんの言葉は僕に影響を与えました。彼の助けなしでは僕はここまで来ることができませんでした。その他にもはるとさんはギターを教えてくださいました。この友情のおかげでギターがどんどん上手になりました。ですので、それからは桜美林のライブのために一緒により多く音楽の練習をするようにしています。

実ははるとさんは桜美林のバンド以外にも自分のバンドがあります。ライブを見に行った時に、彼のバンドメンバーに会いました。僕を歓迎してくれたので、とてもアットホームに

感じました。それで、僕もライブが盛り上がるように頑張りました。

次のライブの最初に、バンドのボーカルはアコースティックギターで一曲歌いました。彼女は曲を歌う前にその曲について説明しました。彼女はまず、彼女にとって大切な人のための曲だと言いました。それから、彼女の新しい友達や家族、そしてほかの国から来た友達のためだと言って僕を指しました。僕は感動しました。

バンドが演奏している間、僕はとても盛り上がりました。それを見てバンドメンバーは幸せそうでした。ライブの後で皆さんと一緒に話しました。そうしてはるとさんは僕にある言葉を言ってくれました。はるとさんは僕に「いつもありがとうございます」と言いました。僕はこの言葉から、はるとさんとの友情を感じたし、とてもかっこいいと思いました。僕は、この言葉を一生忘れません。

僕にとって、はるとさんはいつも一生懸命で僕のお手本です。なのでお互いのために僕はベストを尽くします。今学期の目標は、町田駅のモニュメントの下や鴨井の橋など、色々なところで多くの人の前で自分の作った曲で路上ライブをすることです。そしてはるとさんに僕を誇りに思ってもらうために頑張ります。はるとさんとの友情によって僕は成長できたと思います。もし、日本に留学しなかったら、はるとさんに会えませんでした。はるとさんに会えて、本当によかったです。

皆さんご清聴ありがとうございました。

スマホで失ったこと

留学生別科 蕭 瀟

みなさん、こんにちは。蕭瀟と申します。今日、私は「スマホで失ったこと」について話させていただきます。

みなさんはたぶんこのような経験があるでしょう。電車に乗るとき、スマホで友達にメールを送ったり、ビデオを見たりします。勉強中、何かわからない場合は、スマホで検索して調べればすぐわかります。暇なとき、スマホによってfacebookとかwe-chatとかでメッセージを読んだり、おもしろいことをシェアしたりします。街を歩いているとき、ご飯を食べているとき、また、トイレに行くときさえも、スマホを使う姿がよく見られます。簡単に言えば、スマホは今や私たちの生活の一部になっているということです。

科学技術の発展とともに、生活はどんどん快適になっていきます。疑う余地なく、私たちに巨大な便利を作ってくれるスマホはそれらの科学技術のひとつです。古代の生活に比べると、その便利さはよくわかります。スマホは時間と空間の制限を越えて、短時間にお互いに交流ができるようになります。簡単にボタンを押すと、メールや電話などで、数秒の間に伝えたいことがすぐ相手に伝えられます。ほんの小さな機械で、ネットショッピングができる

し、天気も確認できるし、これより心地よいライフスタイルがあるでしょうか。

しかし、よく考えてみると、このスマホを使っている私たちは何かを失いつつあるのです。

同じ部屋に住んでいる人と、直接に一言を言えば、言いたいことは相手に伝えられるのに、わざわざメッセージを送って交流します。SNSに没頭して、スマホが自分の全てになって、まわりの人や身近なものなどに全然気づきません。そのために、実際に相手と対面した形でのコミュニケーションが苦手になってしまいます。世界で最も距離が離れているのは、生と死ではなく、目の前にいるのに、心と心で交流できないということでしょう。

スマホを使いすぎたために、愚かになってしまったということにみなさん気づきましたか。何かわからない場合、自分自身で考えるのではなく、ひたすらスマホに頼って、検索で答えを探すだけです。つまり、私たち自身の思考力はスマホに奪われてしまいました。それに、紙に書かなければならない文字もスマホで書きます。これらのことによって、私たちは考える力を失って、愚かになってしまったのではないのでしょうか。

さらに、もう一つ注意しなければなりません。スマホを使うとき、画面から出ている強い可視光線をずっと浴びると、目に甚大な影響があるということです。寝る前に、スマホに集中しすぎると、寝ることを忘れて睡眠時間が短くなって、明日の授業に影響するのみならず、健康も崩しやすいということです。

前に述べたように、確かにスマホの出現は私たちの生活に巨大な便利さを作ってくれていますが、それと同時に私たちもコミュニケーション能力や思考力、健康などを失っています。生活によく役立つスマホにまるで囚われてしまったように日々を過ごすなんて、悲しいことではないでしょうか。私たち人間こそ支配者でしょう。どうやってスマホをよく使うのかの選択権があつて、主導権を握らなければなりません。

さあ、みなさん、ひたすらスマホを使うだけでなく、いつも心の中でこう問いかけましょう。今、私たちは何を失っているのでしょうかと……。

以上です。ご清聴どうもありがとうございます。

幸せはいつも自分の心が決める

留学生別科 徐 智捷

皆さん、こんにちは！ 桜美林大学留学生別科で勉強している徐智捷と申します。3カ月前に中国・上海から日本に来たばかりですので、おそらく私の日本語は発音や用語不足が多くて、お聴きづらいと思いますが、皆さんどうぞよろしくお願いします。

本日、ここに私が発表しますテーマは、「幸せはいつも自分の心が決める」です。
ある物語があります。

「ここに金貨の入った袋が二つあります。片方の袋には、もう一方の2倍の金貨が入っています」。ある人があなたの前に現れて、こう言いました。「どちらか一つを選んでください。それを差し上げましょう」

あなたは、左の袋を選びました。中には10枚の金貨が入っていました。すると、その人は「袋を変更することもできますよ。どうしますか」と聞きました。

左の袋が金貨10枚だったということは、右はその倍の20枚か、あるいは、半分の5枚です。さて、あなたはそう言われたとき、右の袋を選び直しますか？

幸せな人は「私の持っている袋は多い袋なので、本当に良かった！」と思います。逆に、

「私が持っている袋はきつと少ない袋なので、最悪だ。変更しよう」と悩み、くよくよし後悔する人もいるでしょう。右の袋が左の倍でしたか、半分でしたか。でも、そんなこと重要ではありません。重要なことはあなたの思いがあなたを幸せにするかどうかということを決まります。つまり、幸せは、いつでも自分の心によって決まるのだと思います。

もう3年前になりますが、私はある有名大学の入学試験に失敗しました。高校時代に優等生だとか言われ自信過剰の油断でした。たった10点差の不合格でした。その時の悔しさと来たら、自分は世界中で一番の不幸な人間だと思いました。別の大学の受験勉強はしたくない、そして自分の将来はもうないと思いました。そんな風に迷っている時に、父から「お前は今、きつと一番不幸だと思っているだろう」と言われました。私は黙って頷きました。「確かに、お前は希望の大学に入れなかったけれど、親にすれば息子がどの大学でも進学できるのが誇りで最高の幸せに感じるんだよ。もし、お前がそのまま大学に進まないとしたら、不幸は相変わらず不幸のままなんだよ。あそこの大学でいいんじゃないの？ 家からも近いし、それに新しいし専門学部も多いよね。まずは自分の気持ちを整理して、捨てる神あれば拾ってくれる神もいるはず。幸せはいつも自分の心が決めるものだよ」と。父さんはこのように言ってくれました。

確かに有名校へは入学できないけれど、自分には優しい両親と温かい家庭がある。これは

何よりの幸せじゃないだろうか。今、自分なんか不幸だと感じている人がいますか？

でも、私達の地球上には、毎日の食事すらも欠く、体の不自由な人と比べたら、私たちは丈夫な体を持っています。ぼろぼろな服を着ている人と比べたら、私たちはおしゃれな服を着ています。私たちは幸せではないでしょうか。

幸せはいつも自分の心が決めるのです。

私が頑張ったこと



特別賞

ビジネスマネジメント学群3年 ジェイソン プア

皆さんはいつ桜美林学園に入学しましたか。1年前に、私も皆と同じく、桜美林大学に入学しました。大学案内を見て、この大学は留学生に対して関心が高く、すごくいいなと思ったことが、この大学を希望する一つの理由になりました。しかし、入学してから、私は全然違う大学の雰囲気を感じるようになりました。

皆は多分私と同じく、入学してすぐ仲間を探したかったでしょう。そのため、色々な交流活動に参加したり、大学の活動などに参加すれば友達ができるかなと思っけていても、私たち正規留学生のような学生は大学の色々な学生団体の情報が手に入り辛いことがあります。この問題が続いて、最初の1カ月ぐらい私は友達がない大学生活を過ごしました。

入学してから、私は国際寮に住んでいます。国際寮が主催しているウェルカムパーティーにも参加しました。大学のある支援課が応援している団体の活動もすべて参加しました。すると、この二つの団体が主催した活動にはいくつかの共通点があることを見つけました。まず、良かった点は、日本人の学生が留学生のために主催した活動に参加して参加者の私にも友達ができました。とても有益な活動でしたが、参加者も主催者も、自己利益のためではな

いかという考えがあります。その理由は、ある活動の時、私は日本人の学生と会話をしようとするたびに、この日本人学生はある欧米人の学生を見つけて、すぐ私の目の前から外れて、欧米人の学生に話しかけに行ってしまう。交流会の時も、楽しい写真を撮ろうとしても、多くの写真は日本人学生と欧米系学生の交流会の様子ばかりじゃないか。これが私にとって、とても驚いたことです。私も留学生ですが、なぜ違う対応があるのでしょうか？

桜美林大学の正規留学生は毎年約70名ぐらいいます。70人というのは数が多いと言えます。大学は交換留学生を大切にしますが、皆はこの学校の学生でしょう。正規留学生のあと一つの問題は、大学が留学生のために主催している活動の情報がよくわからないことです。例えば、相撲観戦、歌舞伎、キャンプなど、それから草の根プロジェクトのことも、このスピーチ大会もわかりませんでした。情報はどこへ流したか、ほとんどの人は正規留学生のことを忘れていきます。

それぞれの実情を見て、私は留学生として、留学生の気持ちが日本人学生よりわかっている。大学で新しい学生団体「世界の友達」を作りました。世界の友達は桜美林大学で国際交流、国際理解を高めるために活動をしている団体です。私たちは国、人種、宗教、社会問題などのあらゆる壁を壊して繋がっています。多くの留学生が集まっている国際的な団体です。世界につながる学生同士が交流することで、それぞれの国の言葉や文化を学びながら

世界を知ることが目的としてこの団体を作りました。英語だけが大切なのではなく、他の国の言語も大切です！　これから、この思想を広げるためにはとても大変ですが、この精神を桜美林学園の学生たちに伝えたいという気持ちはずっと変わらないと思います。

私の留学生生活

第3位

留学生別科 董 芸

私は別科の新生、董芸と申します。私はよく「日本での留学生活はどうですか」と聞かれます。家族や中国の友達はともかく、まったく覚えていない小学校のクラスメートにまで聞かれたこともあります。それをきっかけとして、私が自分の留学生活を振り返り、この場で皆さんと一緒に考えたいと思います。

留学生活というと、まずは楽しいことがたくさんありました。新しい友達をたくさん作ることができ、毎日新しいことを発見できる。赤ちゃんみたいに周りの世界と接触しています。「ああ、日本の車は左に走っている」とか、「日本は朝ごはんを食べられる店はない」とか、「日本の小学生はショートパンツをはいても寒いと感ぜない」とか、いろいろな発見ができました。つらいことも、もちろんあります。なかなか日本語が上手に使えない場合もありました。ある日、アルバイト先でお客さんが「レバニラ炒め」を注文した時、私が聞き間違えて、「バナラ炒めですね」と言ってしまい、お客さんに確認したときもありました。

このようにいろいろある中で、私にとって留学生活と聞かれると、「悲しかった」と答えたいです。なぜかという、私は大学3年生の時、中国から日本に1年間交換留学しました。

大学の専門は日本語なので、その時はもう将来日本語教師になりたいと決意して、留学しに
来ました。しかし、その1年の間に、私のおばあさんが亡くなりました。家族のみんなは私
が海外にいるからと思って、そのことを私に隠していました。私はおばあさんの最後の見送
りもできなく、すごく苦しかったです。おばあさんは私を小さいころから育ててくれて、私
にとってはこの世で一番大事な人とも言えます。それなのに、お葬式にも参列できなかった
ことは今でもずっと後悔しています。その時から自分を責め始めて、なぜそんな時に、私が
この日本にいるのかと思い、もう日本になんか二度と行かない、日本語教師もあきらめよう
と考えていました。そのまま大学を卒業して、就職して今まで2年経ちました。ところがあ
る日、私は家で以前おばあさんが書いた手紙を読んで、突然わかりました。その時、家族の
みんながおばあさんのことを私に隠していたのは、私に期待していたからだったのです。そ
れで、私はどうしても亡くなったおばあさんや家族の期待に応えないといけないと思ってい
ます。そう思って今回また日本に来ました。今の私の留学生活は非常に充実していて、大学
院の試験準備に向かっていろいろ勉強しています。別科の石塚先生や事務室の皆さんが助け
てくれて本当に感謝しています。今の私にとって、大学院に受かるより、今のこの気持ちや
心を非常に大切にすることがもっと重要です。ある目標に向かって着々と努力できることは
本当に幸せなことだと思います。

みなさんも日本に来て、絶対にある夢を持っていると思います。皆それぞれ目標が違っても、その気持ちは変わらないと思います。一人で知らない環境に来て、いろいろあると思うけれど、今を乗り越えると、もつといい自分と出会うことができると思います。私に信じています。ここからの留学生活も、自分や家族の期待に応えられるように一緒に頑張りましょう。

日本の餃子



留学生別科 萬 瀟瀟

餃子という言葉を知ったら、頭の中にぱつと浮かぶのは熱々の湯気をあげた水餃子のイメージでした。日本に来て、店で餃子を頼んだ時、目の前に出てきたのは焼き餃子でした。不思議だと思いながら、一口食べるとびっくりするほど美味しかったです。それから、だんだん日本の餃子が好きになりました。

日本の餃子は「焼き餃子しかないのか、いつから、どこから日本の餃子が現れたのか」などの疑問を持ったので、ネットで調べてみました。日本国内で初めて餃子を食べた人は江戸時代の徳川光圀でした。今の日本の餃子のもとになったのは戦後、中国・満州にいた日本人引き揚げ者などによって日本に伝わってきた中国伝来の料理です。一方、中国では餃子は昔から存在し、満洲民族による清朝成立後に広く華北一帯に普及し、中華料理の代表的な料理のひとつになったということです。

日本では、いろいろな種類の餃子があるそうです。水餃子や揚げ餃子、その他、手羽先餃子など、さまざまなバリエーションがありますが、飲食店でよく見かけなのが、その中心となるシンプルな焼き餃子です。中国でもいろいろな種類の餃子がありますが、普段食べられ

ているのは水餃子です。

そして、中国と日本の餃子の餡も違ってきます。中国の餃子の餡は肉とニラ、肉と生姜、ニラだけといった食材が主流になっています。日本では餃子の餡にんにくが入っていて大衆的な料理として広がっています。中国では、餃子にほとんどんにくが入っていないので、日本の独特な開発だと思っています。実は、普段にんにく嫌いな自分も日本の餃子を食べると、なんの違和感もなく、逆ににんにく、肉と野菜の組み合わせは相性がいいと思っています。

同じ餃子という食べ物はこの二つの国での発展が違い、両方とも別々の分野で工夫し、自らの特別な料理が生まれてきました。それは郷に入っては郷に従えと同じ感じがします。現地に生活している人々によって、食べ物も変わってきます。人々の習慣や思いなどをこめて作られてきた食べ物はその土地の人々の知恵を反映しているのではないのでしょうか。

日本での一人旅



特別賞

リベラルアーツ学群4年 エルデネバット ルハムザヤ

私はあと2カ月で旅を終了します。この場を借りて、自分の旅について楽しく話したいと思っています。私の旅は今から3年10カ月前、2011年の9月5日からスタートしました。当時は、「これからは『桜美林』という大家族の一員となつて、一人旅に出るモンゴル人の私は前に進めるかな」と不安を抱いていました。でも今日までの3年10カ月、私は本当に楽しかったです。もちろん皆さんが感じている日本語の問題、日本人とのコミュニケーションにおける壁、自分との戦い、ホームシックなどすべてを経験しました。たまには「帰国しようかな、これでいいのか、何が私の旅の目的なのかな」と問いかける日々は少なくありませんでした。どこかに一人ぼつちに捨てられたような気持ちになりました。こんな私を支えて、最後の最後までたどり着くまでには「一人旅の目標」がすごく強い影響を与えました。それは、様々な人々と触れ合い一生の思い出を作り、自分の夢を見つけ出すことでした。それでこのような目標を達成した自分の姿をいつも想像しながら苦しい時を乗り越えていきました。逆に私には楽しい、うれしい日々が9割ありました。それは日本で出会った日本人の先生方や友達や世界の各国から来た留学生と触れ合ったことでした。毎日様々な人々と触れ合う

ことで日本語を覚え、日本の文化を知っていきました。日本の文化だけではない世界の文化を知ることもできました。桜美林大学国際寮での生活や学校での行事を通して、世界の文化や人々と知り合い、触れ合いました。もちろんこのような世界とつながったときは、異文化理解の問題や壁に当たりました。たとえば、みんなが「あなたは中国人？ 中国語しゃべれるよね」と質問し、私は世界の文化、世界について話し合わなければいけなくなりました。ほかには、「私は豚肉を食べられないよ。食べてはいけない」というカザフの友達から宗教について学んでいます。このような世界の人々と触れ合いながら毎日を過ごしています。つまり私は人生での、桜美林での、最高の一人旅をしているのです。

「一人旅」の一番大切なことは「自分の夢を見つけること」でした。私には日本の大学へ行って、世界を知りながら自分に挑戦したいという夢がありました。それはあと2カ月後に「夢が叶ったよ」と言って、目的到着となります。そんな私は、2カ月後からの新しい旅、新しい夢を見つけないといけないと悩み始めました。その悩みを世界の文化を教えている友達や先生たちや大切な家族と話し合ってみました。もともと大切な自分の心とも話してみました。その結果、見つけました。私の新しい旅や夢は、モンゴルからスタートします。夢は、社会の良さ、悪さを実感しながら、「正しい」情報をシェアできる人材として求められたという夢です。

最後に、ここにいる「旅人」とも言う留学生たちと仲間や先生方へ伝えたいことがあります。それは、「留学とはつらいことではない。異文化に触れ合うことは五月病と同じことではない。留学とは、一人旅であるが、世界の人々や文化と触れ合いながら、自分の夢や本音を見つけるチャンス」であることを伝えたい。皆さん楽しくつらい時もある「一人旅」を過ごしてください。

私の心に日本



特別賞

交換留学　グエン　ゴー　フエン　チャン

「日本について、どう思いますか」。もし誰かに聞かれたら、あなたはどうか答えますか。

日本に来る前の私は、日本はきれいで文化的な国であり、経済発展国であると思っていましたので、「将来日本で暮らしたい」と迷わず答えていました。

来日してから2カ月たちますが、日本で生活してみると、教科書で習ったことと実際の生活習慣とは異なっていて、非常に驚くことばかりです。今後日本で暮らしたいかどうかは、今ははっきり分かりません。なぜなら、いろいろな理由があります。

まず、日本人は親切で道に迷ったら一緒に連れていってくれる人が多いです。しかし、新宿へ遊びに行ったときのことです。ある人が突然転倒して気絶してしまいましたが、みんな見ていたのに、誰も助けませんでした。日本人は時間に追われているようで、いつも「間に合わない！」という感じがします。その気持ちも分かりますが、困っている人を見ても助けられないという人たちの行動が、私には理解できませんでした。

次に、日本へ来る前「電車やバスなどでは、化粧したり、うるさくしたりすることなど、絶対だめですよ」と、私の日本人の先生が話してくれました。しかし、日本で電車に乗ってみると、

違いました。みんながうるさくしていましたし、化粧をしている人も多くいました。

それに、「日本人は電車で本をよく読みます」ともよく聞いていましたが、現実には本を読む人は少ないです。本ではなく、携帯電話に代わっているように思います。日本人はいつも一人でゲームをしたり、音楽を聞いたりしてさびしそうに思えます。さらに、最近非常に驚いていることは、ペットを飼う人がたくさんいるということです。日本は多くのものに囲まれた便利な生活ですが、周りの人と付き合うことが少なくなってしまう、心が冷たくなっていると思います。

日本は経済的には豊かになりましたが、精神的には貧しくなってしまったように見えます。機械がどんどん発展し、生活が便利になり、お金をたくさん稼ぐことができます。それはいいことですが、かわりに精神的な豊かさを犠牲にしていると思います。国家のために、日本人は全力を尽くして働いてきましたが、もつともつと発展した先、日本人の生活ははたして幸せでしょうか。

経済的な豊かさと精神的な豊かさのバランスをとることが、一番必要なことだと思います。現在のベトナムは、日本に比べると経済的にはまだまだの国です。しかし、精神的には日本より豊かだと、私は思います。近年、日本とベトナムの関係はよくなっています。お互いに両国のいいことを学びあい、取り入れあうとよいのではないのでしょうか。

勇往邁進

留学生別科 ゴベ トマ

「楽な道を選んではいけない」。これは、高校で専攻を決める時専攻について悩んでいた私に父と母が言ってくれた言葉です。高校生の時勉強にやる気を感じられなかった私はとりあえず高校を卒業できればいいという考えでした。しかし、私のこのような様子を見て父と母は私に言葉をかけたのです。「楽な道を選んではいけない」と。その時から私は自分の将来について深く考えるようになりました。たくさんのことを考えているうちに、日本語を改めて学びなおしたいと考えるようになり、高校卒業と同時に日本への留学を決めました。桜美林大学の建学の精神である、「国際人の育成」という言葉に興味をひかれ桜美林大学へ行くことにしました。私の出身地であるヨーロッパではアジア人の留学生が非常に少ないため日本へ来てできた様々な国の友達は今ではかけがえのない存在となっています。

私は桜美林大学へ来て草の根プロジェクトという活動を行っています。この活動を通してほかの国の留学生と知り合い、お互いの国について話し合うことでほかの国について知ることができ、また、自国についても再認識することができました。自分なりに国際理解ができているのではないかと感じています。また私は、先学期「建築文化論」という講義を取り、

その授業で建築の基礎について学び、建築家には建築物を建てる際にそれぞれのこだわりがあることを知りました。一つひとつの建物にはそれぞれ個性があり、私には建物が生きているかのように感じられ、とても魅力的に感じました。そしてこの講義のおかげで建築家という職業にあこがれを持ち、建築家になるということが今の私の大きな目標となっています。

もし、高校生の時の私が自分の将来について深く考えることがなかったら、両親に言葉をかけてもらっていなかったら……。私は日本へ留学することもなかっただろうし、まして、自分の将来の目標が見つかることはなかったでしょう。桜美林大学へ留学し、たくさんの友人ができました。みんな国籍は違うかもしれませんが、そんなことを感じたこともなく、みんな私のかげがえのない存在となり、私の財産となりました。そして、この大学で改めて自分と向き合い直すことができました。

「楽な道を選ぶではいけない」。この言葉はこれからの私の人生の中でとても大切な言葉になるでしょう。8月に私は1年の留学を終え、9月からは建築家になるために本格的に勉強し始めます。日本へ留学したことによって得た前進することへの意欲、出会いを大切に自分の夢をかなえていきたいと思います。

本当にありがとう

交換留学 李 天芸

みなさん、こんにちは。桜美林大学RJ交換留学生の李天芸と申します。本日、私は日本の留学生活の中で一つのお話を「本当にありがとう」という題にしてスピーチさせていただきます。

そのお話というのは、私とラーメン屋のおばあちゃんとの出会いのことです。

去年の9月、日本に留学をしに参りました。中国の在学中の大学では桜美林大学との交換留学生が今回私一人だけなので、最初は心細い毎日でした。「誰も知らない、日本語もうまくできない」と、緊張と不安を抱き毎日イライラしていた私は、アルバイト先のラーメン屋のおばあちゃんと出会いました。

そのラーメン屋はおばあちゃんの4人の家族が経営しています。家族経営の理由かもしれませんが、お店はいつも和気あいあいとした、温かい雰囲気には満ち溢れています。仕事の時、おばあちゃんはお菓子や果物などを常に準備してくださいます。忙しくて、食べる暇がない時、おばあちゃんはいいつもお菓子をつまんで私の口に入れてくれます。そして毎晩閉店後、おばあちゃんは必ず「何が食べたい？」と、私に聞いて、美味しい料理を作ってくれます。

おばあちゃんは私を完全に自分の孫娘のように思ってくれていて、服も2枚買ってくれました。

ところが、アルバイトをした経験がない私は、本当に不器用なものです。時々お店の大切な井やグラスなどを壊しただけでなく、手が滑って水をお客さんの洋服に零したこともあります。自分が悔しがっているところを見たおばあちゃんは、責めるのではなく、いつも「お客さんに申し訳ない気持ちをちゃんと伝えたら十分だ」、「井は大切じゃない。天ちゃんが怪我しないほうが大切だ」と言って、私を慰めてくれます。おばあちゃんが温かく接してくださったおかげで、私は一度もホームシックにならなかったことがなく、毎日楽しい留学生活を送ってきました。

それから、私が最も感銘を受け、深く感謝しなければならないのは、おばあちゃんが私の両親が日本に来るための保証人に自らなってくれたことです。

今年の春節、観光旅行のため、両親を日本に呼びたいと思いました。しかし、中国の場合、日本に旅行するには日本人の保証人が必要です。保証人となれば、「身元保証書」や「納税証明書」など、様々なプライバシーに関わる書類が必要で、手続きも大変複雑なので、誰も保証人になりたくないと思うのが一般的です。壁に突き当たった私はとても落ち込んでいて、もう諦めようとしたところ、おばあちゃんは状況を聞いて、少しもためらわずに「おばあちゃ

んが保証人になってあげるよ」と言ってくださいました。当時、私は自分の耳が信じられなくて、感動のあまり涙を流しました。言うまでもなく、おばあちゃんがいろいろ骨を折ってくれたおかげで、両親は予定どおり日本に来られるようになりました。

おばあちゃんとの出会いは、私の人生の中の何かの縁ではないか、と私は常に思っています。言葉だけでは、おばあちゃんへの感謝の気持ちを言い尽くすことができません。おばあちゃんがいるからこそ、留学生活が更に充実したものとなり、私も日本の「人情」という優れた文化を味わうことができました。自分の利益を気にせず、できるだけ人を助けてあげるのは、日本の民族性なのではないかと私はしみじみ考えています。そして、助けていただいた私は、これからそういう優れた資質を持って、人を助けてあげたいと思います。

おばあちゃん、本当にありがとうございます。これからも頑張ります！
以上です。ご清聴ありがとうございます。

講評と賞の概要

桜美林大学日本言語文化学院 専任教員 石塚 美枝

今回は正規留学生4名、交換留学生3名、留学生別科生9名の計16名が参加し、日本での生活を通して発見したり、考えたりした様々なトピックについて発表してくれました。今回の16のスピーチの中には、学校やアルバイト先での人との出会いや交流、日本の習慣や食文化など、素晴らしい人や文化との出会いがある一方、日々の生活の中で現実とぶつかり、自身を振り返り、内面を見つめたもの、あるいは今の日本の社会に厳しい目を向ける意見もあり、これまでより一層深いテーマのスピーチが多いうに感じました。

素晴らしい出会いをテーマとしたものとしては、音楽サークルやアルバイト先での周囲の人との交流について話してくれたジョン・ペラレスさんの『僕の親友』や李天芸さんの『本当にありがとう』からは、周囲の人との心温まるやり取りが生き生きと目に浮かび、ペラレスさんや李さんの人柄が周囲の人を優しくさせる相乗効果があるのだろうと感じることができました。また、リー・シャオウェイさんの『私の好きな日本』、呂尔力さんの『若者の言葉』、萬瀟瀟さんの『日本の餃子』のスピーチからは、日本の社会や日本文化の発見を独自の視点で描いており、大変興味深いスピーチでした。特に1位に輝いた萬さんの餃子についてのス

ピーチは、餃子の長い歴史に始まり、餃子が日本で独自に発展した経緯が細やかに、おいしそうに語られ、私自身も良い勉強になりました。内容も大変おもしろいスピーチでしたが、萬さんのスピーチは言葉が明瞭で、聴く人に配慮した大変聞きやすいスピーチで、構成もしっかりしており、堂々とした発表だった点も高い評価に繋がりました。

また、2位になったフレルバトル・サインサナーさんの『留学生には失ってはいけない「モノ」がある』、また龔枝文さんの『短所』のスピーチには、生活の中で感じた自分の欠点や迷ったり怠けたりした自分の姿と正面から向き合い内省することを通して、新しい自分を見つけていく様子が語られ、彼らが留学生生活を通して人間的に大きく成長していることが感じられました。サインサナーさんはスピーチコンテスト2回目の出場でしたが、スピーチの完成度の面でもさらに成長した姿を見せてくれました。

また、董芸さんの『私の留学生活』、徐智捷さんの『幸せはいつも自分の心が決める』、伊樺さんの『私を感じた大学生生活』、エルデネバット・ルハムザヤさんの『日本での一人旅』、ゴベ・トマさんの『勇往邁進』、湯佳雯さんの『生きてなきや、意味がないんだ』などでは、日本留学前からこれまでの留学生生活を振り返り、日々の楽しいこと、苦しいことを糧に成長してきたことが語られ、これからの彼らを心から応援したい気持ちになりました。

そして、今回のスピーチの中でも特徴的だったのは、特別賞を受賞したジェイソン・プア

さんの『私が頑張ったこと』、グエン・ゴー・フエン・チャンさんの『私の心に日本』、そして蕭瀟さんの『スマホで失ったこと』のスピーチです。この3名は、日本社会に厳しい目を向けて批判的な意見を述べています。例えば、プアさんは桜美林大学の留学生を例に国際化とは何かを問いかけています。また、蕭さんやチャンさんは、日本社会の便利さと豊かさの反面、失われたものがあるのではないかと訴えています。どれもとても厳しい視点ですが、日本社会を深く理解し、クリティカルに物事を捉えることができているからこそ出てくる意見だと思えます。このような意見は日本社会に暮らす者として真摯に受け止める必要があります、勇気を持ってスピーチをしてくれたこの3名の学生に心から感謝したいと思えました。

今回のスピーチコンテストに参加してくれた皆さん、本当にありがとうございました。そして、審査員を務めてくださった新屋映子先生、甲斐晶子先生、東條和子先生に御礼申し上げます。ありがとうございます。また当日講評をくださった淵野辺駅前商店街の指原様、スピーチをご指導くださった先生方へも御礼申し上げます。

次回も留学生の皆さんのスピーチを楽しみにしています。

第 14 回 桜美林大学留学生日本語スピーチコンテスト 文集

2016 年 2 月 29 日発行

桜美林大学日本言語文化学院（留学生別科）

〒252-0206 神奈川県相模原市中央区淵野辺 4-16-1

TEL : 042-704-7041 FAX : 042-704-7033